

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ムロアジは堤防の岸壁にそって、百匹〜二百匹ほどの一群をつくり、他の小魚や雑魚の群れとははつきり違う力強さをもって砲弾の群のように素早く動き回っていた。

釣りに関しては本当にめったやたらと研究熱心な岳は、三宅島のいまのこの季節にムロアジが来ることが多い、ということをやはり釣りの本で調べていて、そのための釣り道具をすでに持参してきていた。さびき鉤はりといって薄ゴムを巻いた一種の疑似餌ぎじえで十いくつもの鉤が等間隔についていた。その上に小さなアミ袋がついていて、ここに近くの釣具店で買ったコマセというこまかいオキアミのかたまりを入れる。竿を振るとそのアミからオキアミが少しづつこぼれてそれが寄せ餌になり、魚が寄ってきたところを疑似餌にひっかけて釣りあげる、という^①たくらみになっていた。釣り用語で「コマセ釣り」という。

やってみるとこれが面白いようによく釣れる。しかも、イキがいいアジだから引きが強くて、そいつを水面から引っぱり上げたときにざらりと銀色の腹を光らせてくるところなど実に感動的であった。

「よおしよおし、こいつはいけるぞう」

はじめてのはずであるのに岳は手ぎわよく何本もそいつを釣り上げた。私の竿にもかかってくる。一度に二匹、三匹もかかってくるとそれだけでなんだかもう釣りの名人になったような気がした。

二時間ほどで小型のクーラーが一杯になってしまった。餌もなくなった。

「もうそろそろおしまいにしようぜ、こんなに沢山食いきれないよ」

私は三宅島の強烈な^㊂ヨウコウウの中で満足した顔で言った。

「民宿に帰ってこいつでどおんと大皿山盛りのアジの叩きをつくってもらおう、あいつはうまいぞお」

「うん」岳はしかしそういつてなぜか^㊂すこし考え込んでいるような顔をした。

「どうしたんだ？ これだけ獲ったんだからもういいだろう、大漁だぞ」

「うん、ただどあのなあ、このアジを二、三匹生きたままサタドウ岬まで持っていけないだろうか？」岳はそのようなことを突然

言いはじめた。

「どうして？」

「うん、あのなあ、生きたムロアジはヒラマサの一番いい餌なんだ。」

「こいつがかな？」

「うん、本にそう書いてあった。けどこの阿古の堤防ではヒラマサはこないんだ。そうしてサタドウ岬は三十メートルもの絶壁だからムロアジのコマセ釣りはできないんだ」

「なるほど」

「だからこのムロアジを生きたままあっちへ持っていったら一番いいんだ」

岳はクーラーの氷の中で硬直した沢山のムロアジを見つめながらなんだか変に大人っぽい顔つきをしてそう言った。

おそらく玉城長之助さんに聞けばなんとかなるだろう、とそのとき私は思った。生きたままムロアジを運ぶ方法とか、あるいはヒラマサ釣りのもつと①テキカクな餌の入手方法といったものを教えてくれるだろう、と思った。

しかし、それでも私たち親子は今回初めて磯釣りを体験しようとしているのである。たとえ冗談交じりとはいえ、いきなりサタドウ岬でヒラマサを釣りたいのですが……などと言うのは②いささか気がひけた。ましてや相手はちよつと気むずかしいそうないトマン出身の釣り名人である。

「うーん、何かいい方法があるかなあ……」

私はいいい方法を考えるふりをした。しかし本当はいかにしてこの無謀な作戦をあきらめさせ、磯の小魚あたりに挑むぐらいで納得させる方法はないものだろうか、と考えていたのである。

「クーラーに氷を入れると死んでしまうから、海水だけにして一匹か二匹ムロアジを入れて車でさつと運んでしまう、というのはどうだろうか」リール竿を片づけながら岳は言った。考えられるのはそのくらいしかないだろうな、と私も思っていたところだった。しかしそれとてもいかにもシロウト考えくさいなあ、とも思っていた。

「あんがいうまくいくかもしれないぜ」と岳はたたみかけるようにして言った。「そうだ、そういうふうにしてやってみようぜ」それからようやくいつものように小学五年のクリクリボウズの③ムジャキ顔に戻って言った。

「どうしたものだろうか……」と私は考えていた。そういうことをしてもとにかく二人ともまったく初めての磯釣りなのである。十中八九、いや百パーセント、ヒラマサが釣れるわけはあるまい、と思った。

「すこし考えてみよう。暑いからあの店で④コオリでも食いながらすこし考えてみよう」と私は言った。そうしてムロアジで満杯の重いクーラーをひきずりながら私はもつと別のことを考えはじめていた。

(中略)

岳のはじめての磯釣り大勝負は結局一度も魚の引きを味わうこともなくまったくの惨敗ということになった。生き餌のついた第一投は魚に食われたのか強い(エ)シヨウゲキに身がばらけてしまったのか、あるいはいたるところに突き出ている岩礁にこすれ取られてしまったのか、リールを捲いて鉤をあげたときにはもうすでに餌ムロアジの姿はなかった。そして次に半死半生の二匹目をくくりつけて投げ、さらに三匹目、四匹目の死んだ餌にもこれといった成果のあとはなかった。

しかし、岳はこの敗戦にはほとんど気落ちすることなく、⑤かえって思いがけず陽気な顔つきになったようだ。

「やっぱりなあ、磯釣りというのはむずかしいなあ、でも川よりも海の方が相手がでかくっていいなあ」

と岳はその夜、玉城長之助さんのふるまってくれたカンパチの刺身で三杯めしを食いながら満足そうな顔をして言った。

「まあな、今度は初めてだったからな、またつぎにやるときはもうちよつといい勝負ができるよ」と私は言った。もともと私の予想には成果の展望はまったくなかったのだけけれど、しかし私もなんだか妙にこの岳と二人の「⑥生き餌大作戦」の惨敗には気分的に満足していた。そうして「また今度やるときにはいい勝負をしようぜ」とは言いながら、果たしてまた今度のとしまでまだこいつに捨てられずにいられるだろうか、などとふいにビール三本の酔いの中で考えたりするのだった。

『岳物語』椎名誠

問一 Ⅱ線部(ア)く(エ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 Ⅰ線部①「たくらみ」とは具体的にどういうことか。その説明が書かれてある部分を探し、最初と最後の五文字で答えなさい。
(句読点は含まない。)

問三 Ⅰ線部②「すこし考え込んでいるような顔をした。」のはなぜか。二十五字程度で答えなさい。

問四 Ⅰ線部③「いささか気がひけた」のはなぜか。本文中から解答欄に合うように、二十五字以内で、抜き出して答えなさい。

問五 Ⅰ線部④「コオリ」とありますが、この場面でカタカナで表記されているのはなぜか。簡潔に答えなさい。

問六 Ⅰ線部⑤「かえって思いがけず陽気な顔つきになったようだ」とあるがなぜか。

次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 初めての磯釣りで沢山の魚を釣ることができたから。

イ 遠い離島で父と釣りをすることができたから。

ウ 生き餌のついた第一投にだけ手ごたえを感じたから。

エ 海の魚を相手にした釣りに面白さを感じたから。

問七 Ⅰ線部⑥「生き餌大作戦」とはどんなことですか。三十字以内で答えなさい。

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ことほどさように、「読む」という行為には、考えれば考えるほど、奥深いものが潜んでいる。

① 「読む」という行為が、「歩く」とことと非常に似通っているのを知ったのは、詩人の長田弘のこんな文章によつてだ。

「歩くということは、じぶんがじぶんからぬけだしてきた感じをもって、いろいろなキズナからときはなたれた感じをもって、一人の自由な② コドクな人間となつて歩くということだ」

この文章の「歩く」を「読む」に置き換えてみたとき、読書の本質をあまりに見事に言い当てていることに驚く。とくに「③ じぶんがじぶんからぬけだしてきた感じ」という表現には、「感電した」ようなショックを受ける。そう、まさに「読書」つてそういうものなんだ、と。

自尊心や劣等感、出生地や職業、年齢や日々のスケジュール、家族や友人、好きな食べ物や嫌いな歌手など、じつにさまざまな属性をぶらさげて生きている、この「自分」というもの。考え込んだり、ため息をついたり、「自分」というやっかいな着ぐるみを着て、生きているようなものだ。

本を読むときに、これらから完全に自由になれるかというところでもない。 A、物語の時間に慣れて、あるいは著者の思想の渦に呑まれて、本に流れる血液が手を通して自分の体内を流れはじめる頃、まさに「じぶんはじぶんからぬけだして」ゆくのだ。いつの間にかさまざまな属性をぶらさげた「自分」という着ぐるみを足元に脱ぎ捨て、本当の意味で「裸の自分」がそこにいる。夢中になると、裸になっていることさえ気づかない。これこそ、読書の大きな功德くどくではないか。

長田はこうも書く。

「歩くことは、あなたが見知らぬ人びとや見知らぬものや自然を見てすぎながら、その人たちやものや自然から、言葉や形や色でもって語りかけないわけにはゆかないということだ」

「日々に歩いて心をひらくことができ、はじめて私たちはいま、ここの中身をほんとうにゆたかに深く複雑なものにすることができるのだ」

いずれも表向きは「歩く」ことを語りながら、③ 読書の本質を言い当てていることがわかるだろう。

「歩く」というのは、ほかの移動手段にくらべればはるかに不便だ。自転車、バイク、自動車、電車、あるいは飛行機……時間と距離の効率において、「歩く」ことは、そのどれにも及ばない。 **B** 「ながら」も利かない。音楽を聴きながら、ぐらいいはできて、歩きながらの読書や、またノートパソコンを使つての原稿書きもまず無理。折り鶴だつてできないだろう。「歩く」ときは、「歩く」ことに集中するしかない。このこともまた、読書と似ているのではないだろうか。

「読書」もまた、「ながら」が利かない。食事や音楽なら可能だろうが、映画を見ながら、人と話しながら、泳ぎながら……本を読むことはできない。くり返しになるが、基本的に時間も肉体も **①** ソクバクされる、すこぶる不自由な行為なのだ。

しかし、そこにこそ、「歩く」こと、そして「読書」することの魅力があるのだ。人間どんなに時間を惜しんで、少しでも早く便利にことを済ませようとしても、たかだか百年の人生である。何億光年という宇宙のスケールに比すれば、瞬きするほど間も **②** 猶予は許されていない。

『読書の腕前』岡崎武志)

問一 Ⅱ線部(ア)・(イ)のカタカナは漢字に直し、(ウ)の漢字はひらがなで読みを答えなさい。

問二 **A**、**B** に当てはまる言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ところどころ イ しかし ウ そこで エ だから オ また カ つまり

問三 Ⅰ線部①『読む』という行為が、「歩く」ことと非常に似通っている』とありますが、「読む」ことと「歩く」ことの共通点として、**適当ではないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不自由な行為である点。 イ 「じぶん」から抜け出せる点。

ウ 「ながら」ができない点。 エ 自由な人間になることができる点。

問四 —線部②「じぶんがじぶんからぬけだしてきた」とありますが、どうすることで「ぬけだせる」のですか。本文中の言葉を使い、四十字以内で答えなさい。

問五 —線部③「読書の本質」とはどのようなことですか。三十五字以内で答えなさい。

問六 本文の内容と一致するものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 何億光年という宇宙のスケールに比すると猶予がないので、「読む」ことはひかえるべきだ。
- イ 本を読むことで、自分という着ぐるみから完全に開放されるので積極的に行っていくべきだ。
- ウ 他のものと比べると不自由な行為である「読む」「歩く」ことを積極的に行っていくべきだ。
- エ 本を「読む」ことと「歩く」ことは、完全に同じであるので、歩くことも行っていくべきだ。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

定茂といふ者ありけり。ある人の供に有馬の湯へ行くとして、*むかばきを人に借りたりけるに、*一懸け貸したりけるを見て、「二つまで貸したりける、①過分なり」とて、②片方をば返してけり。その暁あけになりて、かた皮に左右の足を入れて馬に乗らんとしけるに、*なじかは乗られん。*合ひに合ひたる下人ありて、おし乗せけれども、③かなはず。かく乗りわづらふほどに、人見あひて、
「④あれはいかに」と言ひ笑ひけるをり、⑤初めてさとりにける*をこがましきよ。

【出典】『古今著聞集』 橘成季ここんちよもんじゅう たちばなのなりすえ

*むかばき：乗馬の際に用いる、腰から足をおおう左右一對の筒状の皮。

*一懸け：左右一對

*なじかは乗られん：どうして乗れようか

*合ひに合ひたる下人：よくお似合いの召使

*をこがましき：おろかさ



むかばき

問一 — 線部① 「過分なり」とはどういう意味か、答えなさい。

問二 — 線部② 「片方をば返してけり」の主語を答えなさい。

問三 ㄱ線部「曉」とは明け方のことである。次の和歌の中から、「曉」の情景をよんだものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひさかたの光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ

イ あさぼらけありあけの月と見るまでに吉野の里に降れる白雪

ウ 村雨の露もまだ干ぬ真木の葉に霧立ちのぼる秋の夕ぐれ

エ めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に雲隠れにし夜半の月かな

問四 ㄱ線部③「かなはず」とあるが、何がかなわなかったのか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「合ひに合ひたる下人」が無事に有馬の湯にたどりつくこと。

イ 「合ひに合ひたる下人」が再びむかばきを貸してもらうこと。

ウ 「合ひに合ひたる下人」が主人である定茂を馬に乗せること。

エ 「合ひに合ひたる下人」が人々に気づかれずに馬に乗ること。

問五 ㄱ線部④「あれはいかに」の意味として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア あれはどうしたことだ

イ あれはどんな人なのか

ウ あれはどうにかしたい

エ あれはよくないことだ

問六 ㄱ線部A「言ひ笑ひけるをり」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

問七 ㄱ線部⑤「初めてさとりにける」とあるが、定茂がどのようなことをさとったのか、説明しなさい。

四 次にあげる文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二〇一三年六月、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に、富士山その他が「世界文化遺産」として登録された。また、二〇一五年七月には「明治日本の産業革命遺産」として、長崎県の軍艦島（端島）や旧グラバー邸などが登録された。さらに、二〇一八年「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が文化遺産としてユネスコに登録されるよう、関係者は再度の推薦を目指している。

問い このような、「世界遺産」に登録されることについて、そのメリット（良い点）、および、デメリット（良くない点）の両方に

ついて、あなたの考えを一五〇字以上、二〇〇以内で述べなさい。

（注意） 1、良い点、良くない点の両方ともに述べること。

2、原稿用紙の正しい使い方に従い、指定の字数で書くこと。

3、句読点、かっこなどは、それぞれ一字分あてること。

【採点基準】

- ・字数条件を満たしている…③
- ・正しい原稿用紙の使い方…②
- 段落の始めを1マス下げている。
- 句読点が行の最後の時の位置

(構成)

メリットについて書いている…②
内容の分かりやすさ・具体性・説得力…①～③

デメリットについて書かれている…②
内容の分かりやすさ・具体性・説得力…①～③

合計15点

【減点】

誤字は減点1(同じものは1回のみ減点)

問 七 むかばきは左右一対で使用するものだということ。

問 六 いいわらいけるおり

問 五 ア

問 四 ウ

問 三 イ

問 二 定茂(という者)

問 一 多すぎである。

問 六 ウ

問 五 心をゆたかにできること。語り合うこと。に脱ぎ捨てること。自分と

問 四 いいう着ぐるみ。足を元気に脱ぎ捨てること。自分と

問 三 さまざま。な。属性をぶらさげていること。自分と

問 二 A イ B オ

問 一 (ア) 孤独 (イ) 束縛 (ウ) ゆうよ

問 七 ラ マ サ を ね ら う こ と 。 サ タ ド ウ 岬 へ 運 び 、 ヒ

問 六 エ

問 五 クーラーの中の氷と食べるかき氷の区別をつけるため。

問 四 体験しよ。うと。して。い。た。か。ら。磯。釣。り。を

問 三 い。け。な。い。か。考。え。た。か。ら。岬。へ。持。っ。て

問 二 最初。さ。び。き。釣。と。最。後。釣。り。あ。げ。る

問 一 (ア) 陽光 (イ) 的確 (ウ) 無邪気 (エ) 衝撃

国 語

解答用紙